

週報

こひつじ

第40巻 11号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

青年と老年

まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。(ヨハネ二一の一八)

その一 青年は目的を持つて

どんな人にも若い時代があり、老年の時代がある、生は、だれかに帯を締められて、イエスの観察によれば、若い時は、多くの人が、「自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩」き、年をとると、「ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行」くとのことである。

若い人には、ゆきたいところがある。歩きたいところがある。目的がある。以したがって自分の歩きたい所を上のものが何もない人は、若いと歩いている人は、まだ若い人だ。しかし、振り返って、自分の人

生は、だれかに帯を締められて、自分の好きな所へ連れゆかれた人生だったと思っている人は、年をとった人、あるいは人生経験を積んだ人だと言ってよいだろう。まず若い人について語ろう。

自分の死が近いことを知っている

た老預言者エリヤは、若い弟子エリシャに言った。「私はあなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に、求めなさい」(第二列王記二の九)すると彼は答えた。

「あなたの霊の二つの分を私に受け継がせてください」(第二列王記二の九)

「去りゆく人であるエリヤが、これからの人であるエリシャに強く勧めたのは、
 「求めよ」
 ということだった。将来に向かって明確な願いと目的を持つ。それが若者の特徴なのではないか。

新渡戸稲造は、英文学を学んで何をしたいかと東大受験の面接で聞かれ、
 「太平洋の橋になりたい」
 と言ったと言われている。事実、そういう人生を送ったのである。

新島襄は、学校をつくって何をするかと問われ、
 「良心に裏打ちされた人間をつくりたい」
 と答えたという。

どんな人生を送りたいかは大切な

だが、それ以上に大切なのは、どんな人間でありたいかだろう。経営論で世界にその名を知られたドラッカー教授は一三歳のとき、あるクラスでひとりの先生から、こんな質問を受けた。

「君たちは将来、他の人に、どんな人物として記憶されたいかね」
 もちろんだれも答えられなかった。するとその先生は笑いながらこう言った。
 「私は、今、君たちが答えられるとは思ってはいない。しかし五〇歳になっても、この問いに答えられなければ、人生を無駄にしたことになるだろうね」
 ドラッカー教授は、この質問ほど自分の人生に大きな影響を与えたものはなかったと、のちに語っている。

群馬県には、郷土出身の人物や名所、名品などを取り入れた『上毛かるた』というのがある。

群馬県の人たちは子どもの頃から、学校や地域の子ども会でみんなそのかるたを習い、練習する。だから群馬県出身者で『上毛かるた』を暗記していない者はいなく、

答えられない者は群馬県出身者であると言はう。それは何か。彼の言葉を借りる

上毛かるたに、群馬県出身であると、内村鑑三が登場する。

「世の人にこれぞというて、覚え内村鑑三は故郷の人びとに、どられるべきものは何もなくても、んな人物として記憶されたらどうアノ人は、この世の中に生きてい

る間は、まじめなる生涯を送った彼らはその生涯を次の一行に要人であると言われるだけの事を、約した。後世の人に遺りたいと思います」

「心の灯台内村鑑三」 人生の荒波にもまれている人たちに光をもたらす灯台であると言ある人生であると彼は言うのである。

「心」の灯台内村鑑三に、有名な『後世への最大遺物』という本がある。それは、人は、どのような人物として覚えられるべきかについて書いたものだと言つてよい。

人は、いろいろな人として記憶されるだろう。金を遺した人、事業を遺した人、りっぱな考えや思想を遺した人として。だか、みんながそんな人になれるわけではない。

しかし、だれもが遺せるものが奏楽は吉岡隆夫さんでした。

○説教は、第一サムエル記一五章から、サウルの悲劇について。

「サムエルはサウルのこと悲しんだ」とありますが、サウルの悲劇の原因は預言者サムエルとの決裂だったと述べました。

私たちが人生においても決裂してはならない存在があるのではないのでしょうか。

○第一礼拝が四〇名、第二が四二名、合計八二名（男三一、女五

一）。それに子どもが五名、合わせて八七名でした。

ベニーさんはマレーシアの出身で現在TSMCに勤務されています。

妻のミッシェルさんがお産を控えています。そこで、ミッシェルさんのご両親がマレーシアから来日され、半年ほど滞在されます。おふたりともクリスマスチャンです。三月一七日の礼拝で紹介させていただきます。

交流会案内

四月七日の礼拝後、バーベキューの交流会を予定しています。

参加希望者は名前を書いて受付の箱に入れてください。準備の都合、だいたいの人数を把握するためです。申し込まなくても参加できます。新型コロナウイルスの世界的流行で、お互いの交わりが長い間、制限されてきました。

そんな中で、新しい方もおいでくださっています。また、今年、高校、大学への進学、そして就職する方たちもいます。

その歓迎、お祝いもかねての交流会です。多数ご参加ください。参加費は自由献金です。

召天者記念礼拝

三月三十一日の礼拝は、召天者記念礼拝です。また、先に召された山下円さんの納骨式も行なわれます。

山下啓史さん家族は、埼玉県川越市から帰ってこられ、その日の第二礼拝で挨拶と報告をしていただきます。